中部様式1

平成30年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

美濃市地域公共交通会議

平成２１年３月２３日設置

フィーダー系統　平成２９年６月２９日　確保維持計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿　（Plan）

美濃市の地域の特性と背景

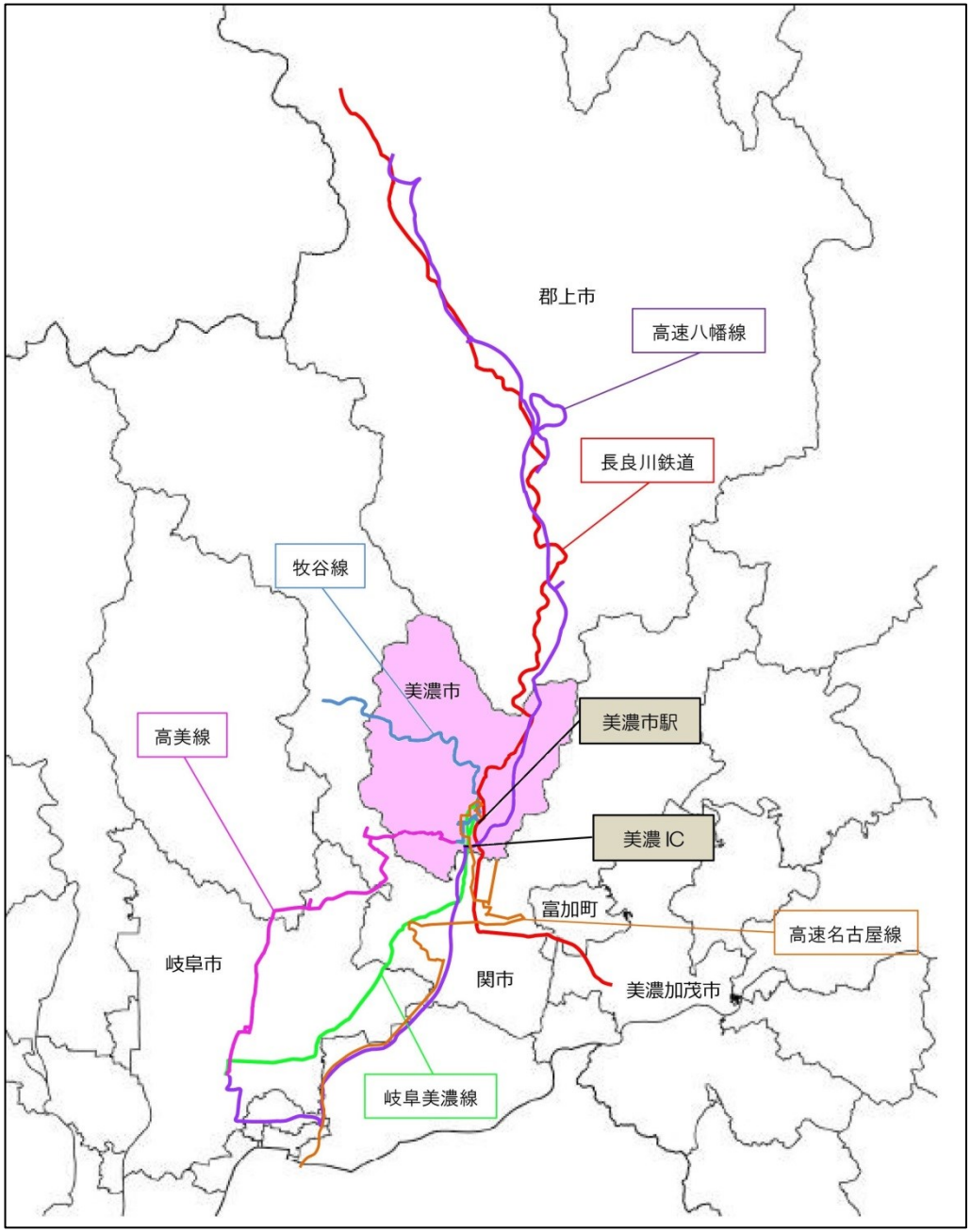
●人　　口：約20,700人、
●面　　積：117平方ｋｍ
●高齢化率：34%
●特徴
・濃尾平野の最北部の山間部と平野部の境付近に位置し、森林が面積の約8割を占める。
・南部の平野部は人口集積が高く、北部の河川の谷あいに集落が低密度に分布する。

美濃市地域公共交通計画（H25.6月策定）

誰もが安全に安心して自由に移動できる公共交通を確保し、効率的かつ効果的な運行をすることを目標とする。

美濃市の公共交通

●長良川鉄道
●都市部への路線バス
（岐阜美濃線、高美線）
●高速バス（名古屋線、八幡線、
新宿線、高岡・氷見線）
●支線
牧谷線
のり愛くん（乗り合わせタクシー）



2.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容　（Do）

公共交通利用促進計画

●利用者目線による利便性向上

・市広報誌へ「のり愛くん」の利用状況、ガイドマップ等の掲載

・公共交通アンケートによる非利用者も含めたニーズの把握

・利用者アンケートの実施によるニーズの把握

●利用促進を誘導する施策

・回数券販売による利用促進（のり愛くん）

・岐阜バス土日祝日限定１日乗車券の牧谷線への適用と広報への掲載

・中濃免許講習センターでの「のり愛くんガイドマップ」配架

・高速名古屋線通学定期乗車券補助の実施

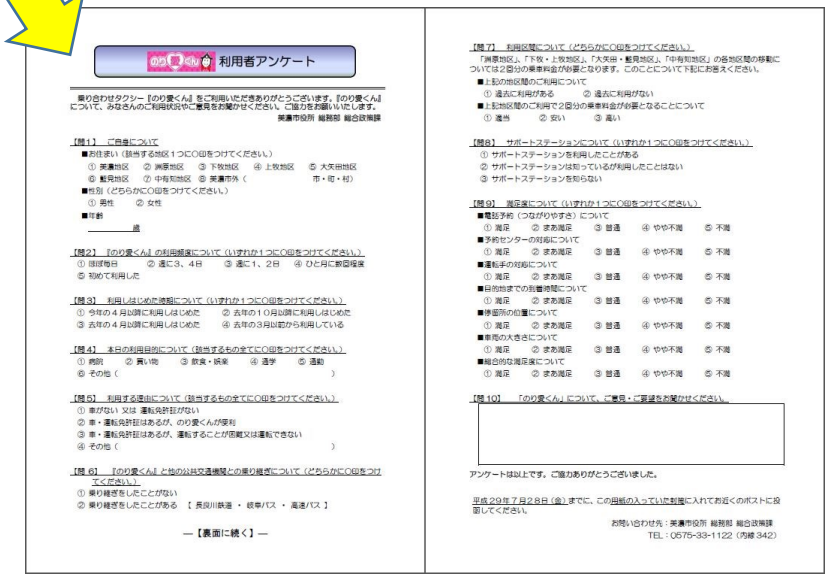
・ケーブルテレビの美濃市広報番組において、「のり愛くん」を紹介

●地域づくりと一体となったマイバス意識を高める方策

・自治会からの要望等に対してミーティングポイントの設置や移設に対応。（H30年実績3件）

平成29年12月掲載

平成30年6月実施



■ 評価の基本的考え方

1．公共交通ネットワークの評価・検証、改善策の検討は、美濃市地域公共交通会議で実施

2．公共交通ネットワークの評価は、ネットワーク全体での評価、路線単位での評価の２つの視点に基づき、目標値の達成度を評価・検証

3．目標値が達成できていない場合は、その要因を分析し、改善策を検討するPDCAサイクルにより実施

◎評価の視点

検証１　サービス評価の視点　生活ニーズにあったサービスが提供されているか
●利用者数と輸送力のバランスを検証 ●ネットワークの妥当性を検証

検証２　事業評価の視点　バスが利用され、一定の費用効率が確保されているか
●利用者と運行経費のバランスを検証

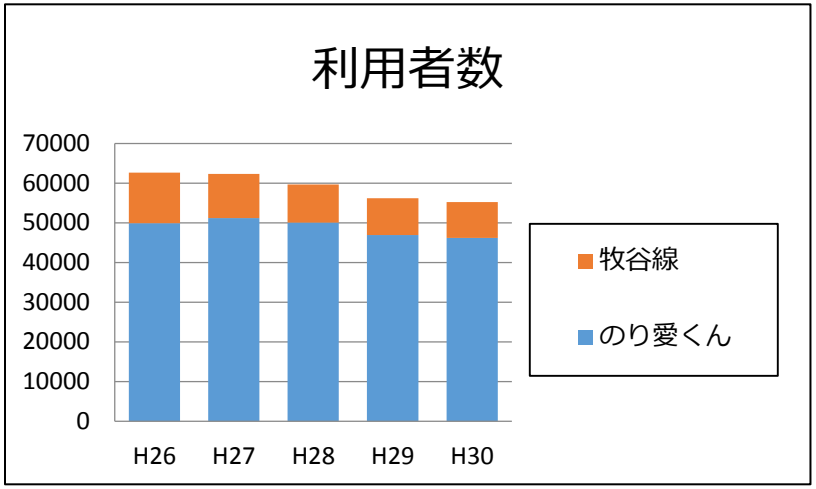
検証３　政策評価の視点　バス運行目的は達成されているか
●住民によるバス評価及び住民参加による取り組み状況を検証

市地域内フィーダー系統確保維持計画の目標と実績

【評価の視点】

■ のり愛くん１日の平均利用者数

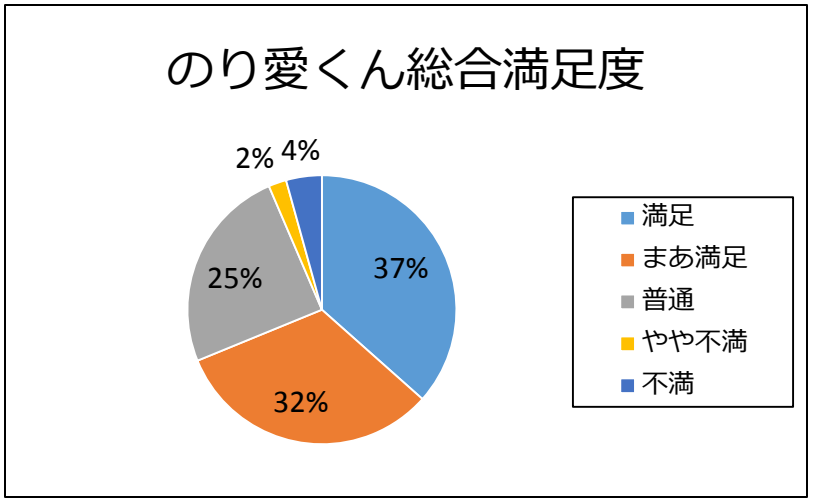
	目標	実績	達成状況
平日	160人以上	154人	未達成
休日	90人以上	72人	未達成



■ のり愛くん利用者アンケートの満足度

総合満足度（5段階評価の内、上位2段階）の割合

目標	実績	達成状況
50%以上	69%	達成



■ のり愛くん一人当たりの運行経費

目標	実績	達成状況
950円／人以下	995円／人	未達成

※（運行経費）－（運行収入）／（利用者数）

●ミーティングポイント「美濃市駅」利用者数

乗車人数	降車人数
728人（全体6位）	931人（全体9位）

※全ミーティングポイント253箇所のうち

本事業評価について公共交通会議で書面表決を行った。（H31.1.15）

4.自己評価から得られた課題と対応方針　（Act）

目標の達成状況に対する課題

のり愛くんの１日の平均利用者数は平日、休日ともに目標値を下回っており、年間の利用者数も46,949人から46,147人（約1.7%減）とやや減少した。

のり愛くんの運行開始から5年経過したが、アンケートからも利用者の高齢化が見て取れ、新規利用者の獲得が不十分であることが考えられる。

また、一人当たりの運行経費については、利用者数の減少と、65歳未満の利用者が少ないことが未達成の要因と考えられる。

公共交通ネットワークに関する課題

利用者アンケートによると、「のり愛くん」から他の公共交通機関への乗り換えに利用したと回答した利用者は33%という結果となっており、長良川鉄道や都市部への路線バスの結節点であるミーティングポイント「美濃市駅」の利用者数も上位にあることから、その利便性の更なる周知を行ない、フィーダーとしての役割の強化が必要である。

- 平成28年以降のり愛くんの利用者数が減少傾向にあり、新規利用者の取り込みがますます必要となるため、市広報誌を通じて継続的に利用方法の周知するなどし、利用促進を図る。
- 運転免許返納者の利用者増を図るため、免許講習センターでの「のり愛くん」ガイドマップの配架を行い周知を行う。
- 引き続き長良川鉄道や、岐阜美濃線など幹線路線、高速バスのサービス水準を確保・維持しながら、地域生活路線との一体的な利便性向上を図る。
- 岐阜バス 土日祝日限定１日乗車券について、継続的に牧谷線に適用し周知を図る。

中部様式2

平成30年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

美濃市地域公共交通会議

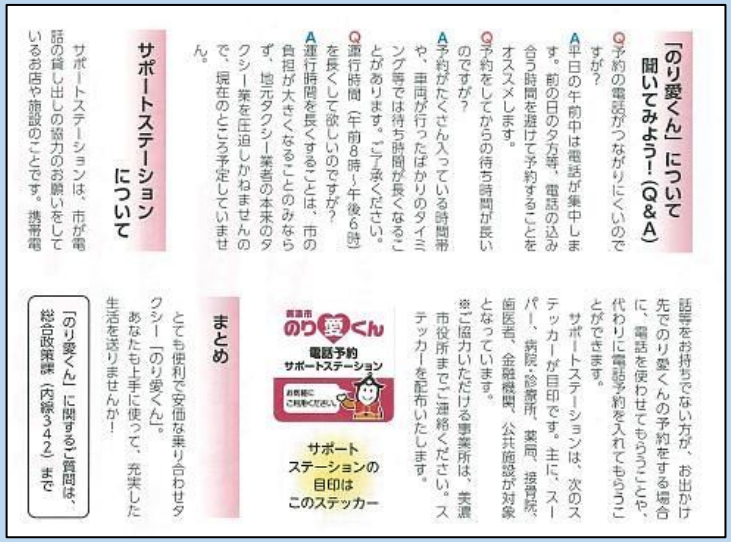
平成２１年３月２３日設置

フィーダー系統　平成２９年６月２９日　確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
鉄道、高速バスの結節点である美濃市駅での乗降は乗り継ぎ利用と考えられ、ネットワークが果たされている。	平成３０年度においても「美濃市駅」の利用は上位に位置し、乗り継ぎ利用されていると考えられる。	広報等により、長良川鉄道、高速バスの利用促進も含めた、乗り継ぎの利便性について周知を行う。
乗り合わせタクシーの単価増加の意向が交通事業者より示されている。	平成２９年４月から２年連続で時間単価を上げ、運転手確保に努めるようはたらきかけを行った。	引き続き、利用者数、賃金、燃料等の動向をみながら随時対応を検討する。
帰りの予約のためのサポートステーションの取り組みについて。	利用者アンケートによるとサポートステーションの認知度は3割程度であった。	市広報誌やホームページを通じてサポートステーションの周知を行う。

サポートステーションの周知

携帯電話の無い乗り合わせタクシーの利用者が、外出先からも帰りの予約ができるよう、停留所付近の公共施設や事業所（スーパー、病院等）に対して、電話の貸し出しや電話代行の協力をしてもらうサービスであるが、アンケート結果ではその認知度が低い結果となったため、広報誌を利用し再度周知を行った。



「のり愛くん」について聞いてみよう！（Q&A）

Q予約の電話がつながりにくいのですが？

A平日の午前中は電話が集中します。前の日の夕方等、電話の込み合う時間を避けて予約することをオススメします。

Q予約をしてからの待ち時間が長いのですが？

A予約がたくさん入っている時間帯や、車両が行ったばかりのタイミング等では待ち時間が長くなることがあります。ご了承ください。

Q運行時間（午前8時～午後6時）を長くして欲しいのですが？

A運行時間を長くすることは、市の負担が大きくなることのみならず、地元タクシー業者の本来のタクシー業を圧迫しかねませんので、現在のところ予定していません。

サポートステーションについて

サポートステーションは、市が電話の貸し出しの協力のお願いをしているお店や施設のことです。携帯電話等をお持ちでない方が、お出かけ先でのり愛くんの予約をする場合に、電話を使わせてもらうことや、代わりに電話予約を入れてもらうことができます。

サポートステーションは、次のステッカーが目印です。主に、スーパー、病院・診療所、薬局、接骨院、歯医者、金融機関、公共施設が対象となっています。

※ご協力いただける事業所は、美濃市役所までご連絡ください。ステッカーを配布いたします。

美濃市 のり愛くん 電話予約 サポートステーション

お気軽にご利用ください

サポートステーションの目印はこのステッカー

まとめ

とても便利で安価な乗り合わせタクシー「のり愛くん」。あなたも上手に使って、充実した生活を送りませんか！

「のり愛くん」に関するご質問は、総合政策課（代表342）まで

広報誌 平成29年12月号から抜粋

利用者アンケートの実施

毎年、利用者アンケートを実施し、利用者の意見・要望等を把握している。また、多く出た要望については事業者と共有し、サービスの向上に努めている。また、市ホームページに掲載するなどし、利用者にフィードバックしている。

停留所の移動・新設等

乗り合わせタクシーの停留所の移動や新設等の自治会要望に対して、随時対応した。停留所の設置場所については利便性を確保しつつ、一定の基準を設けることで過密にならないようにしている。